

28. 大先輩と子供たちに楽しみをプレゼント

自分達も来た道、行く道だから

グループ名 伊豆高原きらめき

代表者 大村湊子

① 活動の目的

全体的に・・・ボランティア訪問する私たちも訪問される方たちもお互いが幸せ感を実感できる活動を行う。

高齢者・・・施設で暮らす限られた生活空間の中で、四季折々の変化を感じていただき楽しみと元気を贈り QOL の向上を目指す。認知症になっても明るく前向きに生活していただく企画の提案をする。携わるシニアの私たちも幸せ感を実感する。

知的障がい者・・・障害があっても堂々と自信をもって生きていくことを実感していただく。障害のレベルによってできることで参加していただく参加型のプログラムと楽しくて踊りだしてしまうほど楽しい歌や演奏を実施する。

児童養護施設で暮らす子ども・・・子どもたちが抱える生活の背景を考えて、自己肯定感と自尊感情が育つ企画を実施する。抱っこタイムを通して、君たちは大切な存在との私たちのメッセージと温かさを伝える。絵本の読み聞かせから心のビタミン剤を届ける。18 歳になり施設を退所して自立したときに、子ども時代の楽しい思い出作りの手伝いをする。困難に負けない生き方が出来るように手助けする。

② 活動概要

◇今年度の活動テーマ「身近な自然を楽しむ」と決めペットボトルグリーンアートに取り組んだ（ペットボトルに軽石とミズゴケを入れ、そこに小さな緑の植物を植え季節の花や飾りを差し込む）。

◇特別養護老人ホーム・いこいの園「いこいさろん」年間延べ 72 名の参加。傾聴、大人向け絵本、紙芝居の読み聞かせ、懐メロ合唱、セラピューテック・ケアの実施、ペットボトルグリーンアート、家族のお見舞いのない方を対象に家庭的な雰囲気ティータイムを行った。夏祭り、敬老会、クリスマス会の手伝いをした。

◇知的障がい者支援施設・碧の園訪問 年間延べ 228 名参加。手遊び体操、誕生日祝い、大型デジタル絵本読み聞かせ、大型紙芝居の読み聞かせ、歌、マジックショー、ハーモニカ演奏、セラピューテック・ケアを行った。クリスマス会の手伝いをした。

◇児童養護施設・川奈臨海学園訪問 2 歳児から 6 歳児対象 年間延べ 204 名参加。手遊び、英語で誕生日祝い、絵本の読み聞かせ、エプロンシアター、抱っこタイム、タケノコ堀、いちご狩り、シフォンケーキ作りとティータイム、伊東かるた大会、ペットボトルグリーンアートを行った。NPO 団体などの方と異世代交流を図り生活経験値を高める活動にも取り組んだ。夏祭り手伝い参加。

◇地元紙伊豆新聞に掲載されました



◇3月28日付

元気に「札取り合戦」

城ヶ崎デイサービス利用者 伊東かるたを楽しむ

伊東市富戸の城ヶ崎デイサービスセンターで27日、伊東かるたをを使ったかるた取りが開かれた。利用者16人は「はい」と元気よく声を出し、伊東を学びながらかるた取りを楽しんだ。

3グループに分かれて取り組んだ。読み上げた絵は「碧湖」といった絵札を素早く取った。読み上げている途中に取ることもあり「早い」などと言って盛り上がった。10枚以上取る利用者もいた。

市内のボランティア団体「伊豆高原きらめき」の活動。伊東かるたを楽しむ利用者たち。富戸の城ヶ崎デイサービスセンター。

毎日のニュースや速報を配信
伊豆新聞 Twitter 公式アカウント
@all_izu_news



◇6月20日付

「懐メロ」歌い交流

きらめき三山ホームを訪問

伊東市で活動するボランティア団体「伊豆高原きらめき」（大村湧子代表）はこのほど、八幡野のグループホーム・三山ホーム伊東（鈴木久子理事長）を訪問した。手遊び体操や「懐メロ」を歌い、利用者たちと交流した。

仮装したメンバーが「懐メロを楽しむ利用者たち」八幡野の三山ホーム伊東

「懐れのハワイ航路」や「南国土佐を後に」を歌い、利用者たちはタンバリンなどをリズムに合わせてたたいた。そのほか、「東のバスガール」故郷を全員で声を合わせて歌い、にぎやかなひとときを過ごした。

同施設への訪問は今回が初めて。これからも定期的に訪問する予定だという。

伊豆の今

伊豆高原きらめき 活動15年

高齢者、子どもにも楽しさを

4施設でプランター制作など

伊東市のボランティア団体「伊豆高原きらめき」(大村湧子代表、会員30人)は「人生の大先輩と子どもたちにも楽しさをプレゼント」自分たちも来た道、行く道だから」をテーマに、15年間、市内4カ所の障害者、高齢者、児童養護施設で共に楽しむ活動を進めている。今年「身近な自然を楽しむ」をテーマに掲げ、ペットボトルを使ったプランター作りを行っている。利用者に草木や花を自分で飾って楽しんでもらう試みで、会話しながら創作することで、利用者に笑顔が生まれているという。

外の刺激がない入所者

を元気にするため、週2

回、月1回、体操や学習

支援をしてきた。そうし

た中、富戸の特別養護老

人ホーム・城ヶ崎こいの園で

「自分の話を聞

かせたい」とい

う入所者の要望

を受け、それを

ヒントに5年

前、入所者の発

表会「いこいさ

るん」を開始した。

発表会に向け、絵画、

演奏といった入所者の個

性を会員が発見するなど

半年間準備する。活動を

通じ、利用者の生き生き

とした姿に驚かされること

ばかりだとい

今年「発表しなくな

い」という入所者もある

ことから、手軽に季節を

楽しめるプランター作り

時期により1カ月に1度

で良いという。

小塩さんは8年前、同

認知症予防、思い出づくりに



入所者たちとプランター作りを楽しむ会員たち
＝伊東市富戸の城ヶ崎こいの園

市十足に引越してき
た。約5年前、寝たきりの
母親が好きなオリヅルラ
ンを庭で育て始めたが気
候に合わず枯れてしまっ

た。小塩さんは寒さが原
因と考え「ペットボトル
で育ててみよう」と試作。
季節に合った飾りや花を
加え、室内は緑と花であ
ふれるようになった。来
客から「きれい」といつ
た声が聞こえ、母親の楽
しみにもなったという。

教室では作り方の説明
を受けた後、会員たちが
「この花はどうですか」と
声を掛けながら一緒に緑
を植え、花を挿した。入
所者は完成したプランタ
ーを見て「花と緑が一緒
になっていい」と笑顔
で部屋に持ち帰った。

会員は「自分の経験や
能力を生かして楽しんで
もらうことが、自分たち
の健康にも良い」と話し、
入所者の体験を聞いた
り、一緒に活動したりす
ることで元気をもらって
いる。

大村代表は「利用者と
一緒に何かできればと思
った。楽しんでやること
で、高齢者の認知症予防、
子どもの思い出づくりに
なればうれしい」と期待
を込めて話す。

(本社取材部
中野恵記者)